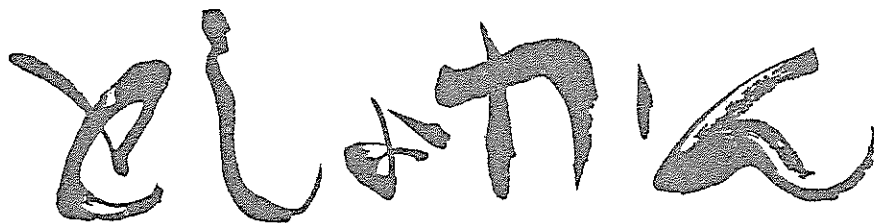


宇都宮市民憲章

- 1 健康で、心のふれあう明るいまちをつくります。
- 2 きまりを守り、活気あふれる楽しいまちをつくります。
- 3 学ぶことを大切に、文化の薫る美しいまちをつくります。

編集・発行 宇都宮市立図書館 明保野町7番57号 〒320 TEL 36-0231



平成2年度

アンケート調査まようもろ!

来館者の皆様にご協力いただいたアンケート調査がまとまりました。ありがとうございます。

この調査は平成2年8月15日～26日の開館日(11日間)に来館した小学生以上の人を対象に行ったもので、「読書アンケート」は小学生以上、「図書館利用アンケート」は中学生以上の方に記入してもらいました。内訳は次の通り。

〈調査内訳〉

小学生	216人
中学生以上	485人
中学生	169人
高校生	131人
一般	185人

男女の割合は、小学生は女子が63%と多く、中学生以上は男子が46%、女子が54%とほぼ半々。

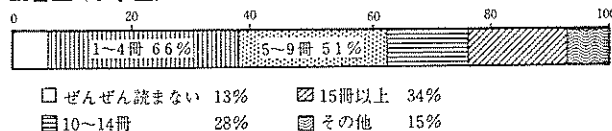
また、中学生以上の職業別割合は、中学生が35%、高校生が27%、勤め人が20%、無職(主婦含む)10%となっており、中学生と高校生が約6割を占めている。

読書アンケート調査

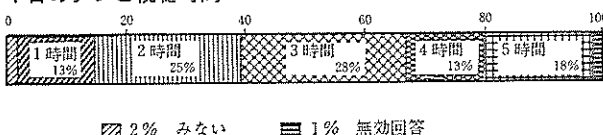
〈小学生〉

・読書量

読書量(小学生)



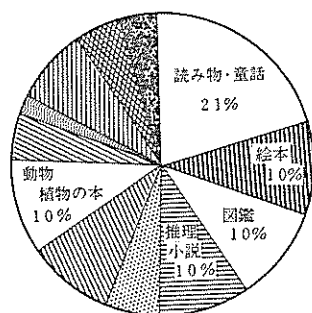
1日のテレビ視聴時間



2% みない 1% 無効回答

一カ月平均読書量は8.5冊で昨年より2冊増えている。学年別では3・4年生が最も多く、ぜんぜん読まない人の数も4年生では0となっている。また、一日平均の読書時間は1.6時間、テレビ視聴時間は3時間である。

— どんな本を読むか(小学生) —



伝記	6%
歴史の本	9%
機械・料理の本	5%
産業・鉄道の本	2%
趣味・スポーツの本	8%
言葉の本	5%
その他	4%

学年別では絵本が高学年になるほど減少し、推理小説が増加している。読み物・童話、言葉の本などは各学年とも平均的に読まれている。

いちばん好きな本

いちばん好きな本の書名を記入してもらい、書名別順位をだしてみた。

一位の「ジャパニーズ・ドリーム」

・図書館について

図書館の好き嫌いについては、好きが81%、一カ月の利用回数は1~4回が64%で最も多い。図書館利用に対する家族の意識(問・図書館で本をかりてゆくと家の人はなんといいですか)はもっと読みなさいが27%、忘れないようにしなさいが23%で全体の50%を占め、読書、図書館利用とも、積極的である。(全体のうち、その他が28%)

〈書名別順位〉

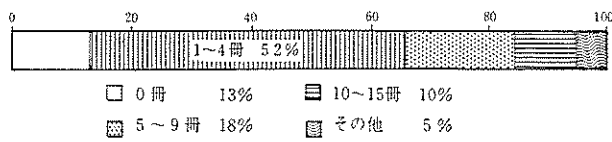
書名	著者名
1位 ジャパニーズドリーム	蜂屋誠一
2位 ヘンテコどうぶつ日記	長 新太
シャーロックホームズ	コナン・ドイル
3位 ヘレンケラー	
アンパンマン	やなせたかし
日本の歴史	
うさぎのくれたバレエシューズ	安房直子
かぎばあさんシリーズ	手島悠介

「ム」は第5回うつのみやこども賞に選ばれた作品で昨年も上位にあっており、根強い人気である。「ヘンテコどうぶつ日記」「うさぎのくれたバレエシューズ」は栃木県夏休み推せん図書である。

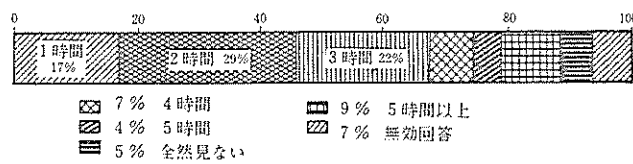
〈中学生以上〉 ・読書量

一カ月平均読書量は5.6冊で、一

読書量 (中学生以上)



1日のテレビ視聴時間



日平均読書時間は1.3時間、テレビ視聴時間は2.5時間である。

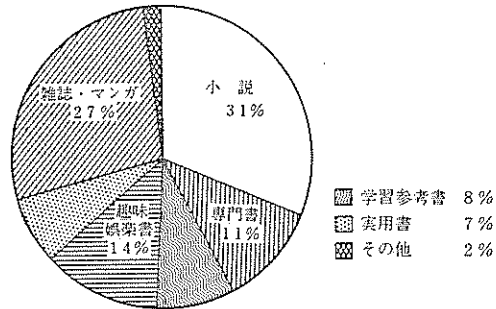
・読書傾向

7項目から選択してもらった。ジャンル別に多いものをあげてみる。雑誌の需要が昨年より一割増えている。

・好きな本と好きな著者

好きな本では「こころ」が一位にあがっている。この作品は年代を問わず昨年も人気があった。夏

— どんな種類の本を読むか (中学生以上) —



目漱石の作品は上位に2件あがっている。また、昨年はあがっていなかった黒柳徹子著の「窓ぎわのトットちゃん」が今年は一位にな

〈著名別順位〉

書名	著者名	順位	作家別順位
1位	こころ	夏目漱石	1位 赤川次郎
赤毛のアン	モンゴメリー・L・M	3位	2位 宗田 理
窓ぎわのトットちゃん	黒柳徹子	2位	3位 芥川龍之介
はてしない物語	エンデ・M	5位	4位 星 新一
我輩は猫である	夏目漱石	7位	5位 吉本ばなな
			太宰 治

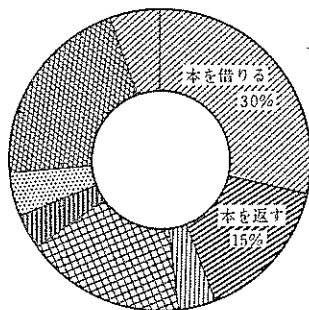
〈作家別順位〉

図書館利用アンケート

予約制度や調査相談コーナーの利用を

図書館にきた目的は「本を借りる・返す」が約4割を占め、「調べもの・情報を得る」「閲覧室を利用する」がそれぞれ約2割を占めている。

— 図書館にきた目的 (複数回答) —



また、希望の本は約9割あり、職員にたずねなくても約8割の人が本を借りたり、情報を得ることができている。

しかし、希望の本がなかった場合、あきらめている人が約6割、7割いるので、予約制度や相互貸借制度、調査相談コーナーなどを活用下さい。

利用者用のコンピュータ

(一階一般開架室入口に設置) 利用者用のコンピュータについて知っているのは約5割、利用している人は約4割に達している。

図書館に望むこと

図書館に望むことでは下記のよう

図書館に対する満足度

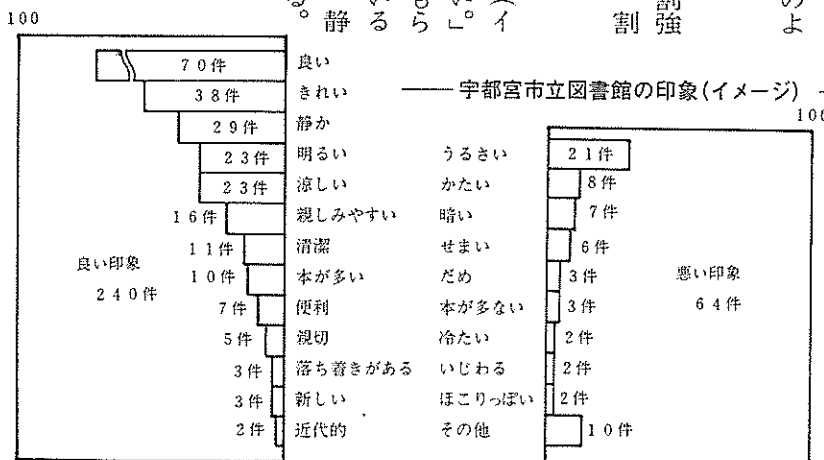
図書館に対する満足度は5割強が満足となっており、不満は1割弱にとどまっている。

図書館のイメージ

「宇都宮市立図書館の印象(イメージ)」を一言でいって下さい。という問いで自由に記入してもらった。良いイメージをもっている人が約8割で、良い、きれいな、静か、明るいなどがあがっている。悪いイメージはうるさい、かたい、暗いなどがある。

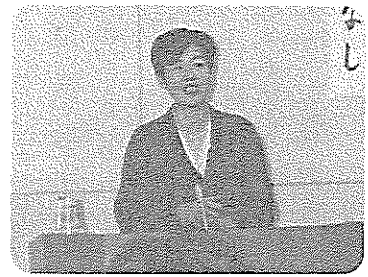


— 宇都宮市立図書館の印象(イメージ) —



— 図書館に望むこと —

いすをもっと多くする	23%
もっと夜遅くまで開く	18%
新刊書をもっと多く	16%
気軽に親切に	
相談できる職員	12%
専門書をもっと多く	11%
その他	8%
借りられる冊数を増やす	4%
貸し出し期間を延ばす	4%
特になし	4%

第4回
子どもとおはなし

去る10月13日(土)、東京子ども図書館職員、根岸貴子氏を迎えて行われた。

4回5回と続けて、児童サービスの手段の一つである「おはなし」に的を絞った。今回は「子どもとおはなし」の係わりあい、実践者の立ち場として、どのようなことに注意しながらおはなしを行ったらよいかなどを中心に、次のように語られた。

おはなしは読み聞かせと違い、本(活字)を仲介せずに話を伝える。そこで重要なのは、話し手と聞き手との間に生じる一体感だと思ふ。おはなしと言うと、図書館サービスや教育と結びつけて狭く考えがちだが、日常の、気持ちや経験したことの伝達もおはなしである。つまり、おはなしとは聞き手に話し手の感動を伝えることであるから、物語りを語る時も話し手がそれをおもしろいと感じてい

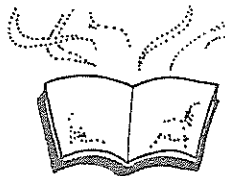
なければ、聞き手にもそのおもしろさが伝わるはずがない。ただ技術や覚えることにのみ気をとられていては、本当の「おはなし」は成立しないので、話し手はまずおもしろいおはなしをどんどん聞いてみてほしい。

質疑応答では、疑問な点にぶつかったら、まず子どもを楽しませることができかどうか自分で考えてみるこ

とが大切だ、とおっしゃった。

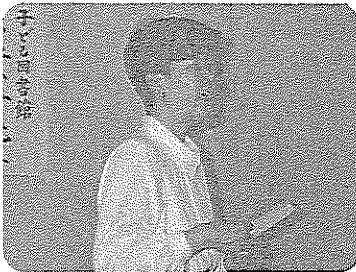
子どもの本の入門講座
“子どもの本”て
どうなの？

東京子ども図書館の職員を迎えて



前回に引き続き「おはなし」を学ぶ講座である。学ぶというより楽しむことから始めよう、というところで実際に「おはなし会」を設けた。

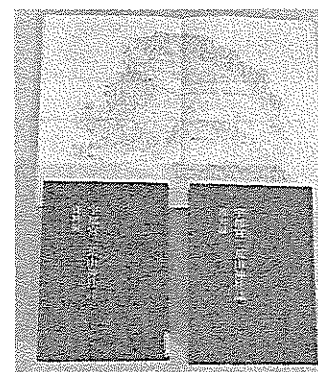
受講生5名と講師の根岸氏が、それぞれ選んだおはなしの素語りあるいは絵本の読み聞かせを行った。今回は、おはなしの技術指導といったことは一切せずに、まずはおはなしを体験することに重点をおかれた。

第5回
おはなし会

- 補足説明として、語り易いおはなしの選び方や基本的なおはなしに関すること(例えば、声を大きくとか、登場人物に気持ちを投入するなど)を話された。
- 質疑応答では、方言がでてるおはなしはどう語ったらよいか、という質問に答えて、それにこだわりすぎると語れなくなるのでやり易いようにするのが一番である、とアドバイスなされた。また、おはなしを選ぶときは聞き手の状況(年齢、人数等)をよく考えて選んで下さい、とおっしゃっていた。
- 今回のプログラムは次の通り。
1. 世界でいちばんきれいな声
 2. 4人のなまけもの
 3. 世界でいちばんやかましい音
 4. そらいろのたね
 5. わたしのワンピース
 6. ならなしとり
 7. ものしり博士
 8. 小鳥になった美しい妹

ふるさとのお話を紹介する

郷土資料コーナー⑥



『宇都宮二荒山神社誌』

宇都宮二荒山神社編・発行

資料編・図録編(一九八八年)

通史編(一九九〇年)

この社誌は、二荒山神社が現在の場所に建てられてから昭和六十六年(一九九一年)になるのを記念して編さんされました。同年四月に資料編と図録編が、今年一月に通史編が発行されるという、四年がかりの労作です。

「二荒の森を中心に築えてきたまち」と市民憲章の前文に書かれているように、二荒山神社は宇都宮市の発展に深くかかわりをもっており、社誌は宇都宮の歴史を知るうえでも貴重な資料といえるでしょう。近世以降数回にわたる大火や戦火をまぬがれた神社の古文書や、町内会に残された記録をもとにして、今回初めて系統的

な歴史がまとめられました。

通史編は、神社の起源から初まり、平安時代から中世にわたる宇都宮明神と宇都宮氏の支配、近世初頭の再建、安永・天保の大火、社家と御祭神の混乱、戊辰戦争の兵家と社頭炎上、近・現代に入つての社格問題、繁華街バンパの中の神社、そして戦後の復活までが詳しく述べられています。また、民話・伝説が附録としてまとめられており、一般の人にも読みやすいものになっていると思います。

資料編には、二荒山神社の造営日程や、その際に奉納された神事芸能を書きとめた『造営日記』や、明治期の降格問題に関する『二荒山神社式内外同始末』など、興味深い資料が収録されました。県史・市史所載の関係史料の目録も巻末につけてあり、たいへん便利です。

図録編には、各時代の地図や、社殿、祭礼の図などが収められており、特に祭り図からは、神社の祭りが宇都宮の活気の根源であったことがうかがえるでしょう。

郷土史研究家の雨宮義人氏、石川速夫氏、文化庁の増瀬徹氏が執筆にあたりました。

子どもと子どもの本をつなぐ講座

子どもと絵本について、児童文学作家の長谷川摂子さんに語っていただきます。

日時 12月9日(日)午後1時30分～3時30分

場所 市立図書館3階集会室

定員 百二十名

申込 直接または

電話で市立図書館へ。

☎36-0231

※託児 1歳以上

20名まで。

申し込みの時に予約してください。おやつ代150円。

冬休みお楽しみ会

恒例のお楽しみ会です。おはなし、よみきかせなど、子どもから大人まで一緒に楽しめます。

どうぞご参加下さい!!

日時 12月26日(木)

午前の部 10時30分～11時30分

午後の部 1時30分～2時30分

場所 市立図書館3階集会室

定員 各回とも先着二百名

第50回記念

落語会

のんき亭喜楽一門会の協力により、昭和57年7月より始まりました落語会も、今回をもちまして50回をむかえることとなりました。今回は特別出演として、春風亭柳橋さんをおむかえすることになりました。

ニュースコーナー



この落語会のもようをテープに録音して、視力障害者の皆さんに郵送貸出をしています。寄席の雰囲気を出すためには、皆さんの笑い声が一番です。多くの方々のご来場をお待ちしています。

日時 平成3年1月20日(日)

午後2時から4時

場所 市立図書館3階集会室

入場無料。

みんなで来てね!



ボランティアのみなさん ありがとうございます

点字・声の図書製作
状況(2年9・10月)
▽点字図書 「続・幸福を知る才能」ほか3タイトル6冊。
▽声の図書 「私のアメリカ」「沈黙の刺客」ほか12タイトル59巻。

郵送貸出利用状況(9・10月)

▽点字図書 9人 40冊
▽声の図書 40人 40冊
▽雑誌 44人 491巻
▽墨字本 67人 1075巻
18人 120冊

寄贈

斎藤ミツ(遺歌集まんさく)、手塚七木(風埃記)、四宮茂樹(子育てー宝木子育てを考へる会ー)、石橋町教育委員会(石橋町の野仏)、栃木県企画部資源対策課(とちぎのとち)、氏家町教育委員会(氏家の屋台)、荒井宗明(春秋の賦)、下野考古学研究会(下野考古学七十四)、大和ミエ子(日光・大和ミエ子詩集)、柏村祐司(陽西今昔物語)、尾島利雄(地域博物館等と村づくり町おこし)、池田貞夫(石那田の祭礼彫刻屋台・二宮尊徳)他多数。

利用案内

○開館時間

午前9時30分～午後7時

ただし、児童図書室は

午前9時30分～午後5時

○休館日

毎週月曜日

国民の祝日

図書整理日(毎月初日または翌日)

○貸出は

図書・紙芝居

レコード・CD

ビデオ・16ミリフィルム

5冊 5点 5点

○講座の問合せ・申込み

電話または直接図書館へ

電話(36) 0231

貸出状況

区 分	2年9月	2年10月
登録者数	148,209人	149,055人
貸出人 数	館内	18,240人
	館外	2,210
	中央公民館	801
	雀宮公民館	976
	合 計	22,227
貸出冊 数	館内	60,035冊
	館外	9,171
	中央公民館	2,624
	雀宮公民館	3,831
	合 計	75,661

(注) 登録者累計数は、開館からの累計数

12月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
						①
2	③	4	5	6	7	8
9	⑩	11	12	13	14	15
16	⑰	18	19	20	21	22
23	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕

'91/1月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
						①
		②	③	④	⑤	
6	⑦	8	9	10	11	12
13	⑭	⑮	16	17	18	19
20	⑰	22	23	24	25	26
27	⑳	29	30	31		